



健康な食べ物、自然、環境に関心があり、農業に興味のあるあなたへ

2019年度本科学研究生の募集のおしらせ

公益財団法人自然農法国際研究開発センター（以下、本センター）は、日本で最大級の自然農法の研究機関です。また、本センターが中心になり研究・開発してきた自然農法の理念および技術を基に教育も行っていますが、その中心となるのがここでご紹介する自然農法の未来を担う生産者・技術者を養成するための研修事業です。研修は、自然農法による就農を目指す方、自然を生かし地域風土を育む「農」と関わっていくことを希望する方、及びこうした考えに基づく農業指導を目指す方などを対象としています。研修は全寮制で、講義と実技実習の他、農家等の見学、調査等から成ります。

本センターの本科学研究を修了した方は、2018年3月現在で110名になりました。その中の半数近くが就農し、良質な農作物の生産に取り組んでいます。

2017年度本科学研究生6名の進路は、就農（2名）、就農準備（1名）、半農半X（1名）、農業大学校入学（1名）、大学復学（1名）となっています。

研修の概要

- 8か月間を研修寮で過ごしていただきます。
- 自然農法の理論やその価値、手法について学ぶと共に作物の一生や田畑の自然を読み解く科学的アプローチ、自然の力を活かす技術を身に付けます。
- 作物の播種から収穫までの栽培管理を通し、自然農法で重要な耕地生態系を維持・発展させる技術について実習を行います。
- 自家採種については、野菜類のタネまきからタネとりまでの圃場管理と栽培、品種系統の選抜を通して、自然農法栽培に適した種子を得るための採種技術と、品種育成の基礎について実習を行います。
- 自然観察と自然農法の技能・技術、専門的な知識を修得し、全体を通じて総合的な栽培技術を習得します。
- 栽培する作物は水稻の他、果菜類（トマト、ナス、カボチャ、キュウリ等）、葉菜類（レタス等）、根菜類（ニンジン、カブ等）のほか、緑肥作物や天敵を増やす植物も取り上げます。

募集要項

申込資格	高卒程度の学力を有し、健康で通院を伴う疾病のない方
申込期間	2018年10月20日から12月10日（必着）
募集人員	6名

受入期間 3月下旬～11月下旬(8か月)、延長制度あり
研修場所 (公財)自然農法国際研究開発センター 農業試験場 (長野県松本市)
研修待遇 全寮制(賄いあり)/休日あり
研修費 298,000円/8か月(月額37,250円相当:圃場研修費、講義費、寮費、食費、所外研修費、傷害保険費を含む)
申込方法 所定の願書に記載し郵送してください。願書のダウンロードについては <http://www.infrc.or.jp/reseach/151/>を参照。

※延長制度とは、希望者は最大4か月の延長研修が可能で、農水省の農業次世代人材投資資金を受けやすくなります。詳細はお問い合わせください。

※応募者多数の場合は、書類選考があります。

研修の様子

本センターホームページ内の圃場だよりで研修の様子を公開しています。
右記のQRコードでアクセスし、ご覧ください。

アドレスは <http://www.infrc.or.jp/blog/blogcat/station/> です。

※コース制は2019年度より廃止され、全員が総合的に学べるようになりました。



研修修了生紹介

本センターホームページ内で公開しています。

右記のQRコードでアクセスし、ご覧ください。

アドレスは <http://www.infrc.or.jp/reseach/1902/> です。



外部講師陣(五十音順)

上野 秀人 (愛媛大学大学院農学研究科教授)
小口 伴二 (元長野県野菜花き試験場長)
重盛 勲 (元長野県野菜花き試験場長)
中井 さち子 (元九州看護福祉大学大学院教授)
中川原 敏雄 (元自然農法センター育種課長)
馬場 健史 (九州大学生体防御医学研究所教授)
藤山 静雄 (信州大学名誉教授)



募集に関するお問い合わせ・お申し込み

公益財団法人 自然農法国際研究開発センター 研究部研修課

〒390-1401 長野県松本市波田 5632-1 Tel. 0263-92-6800 / Fax 0263-92-6808

ホームページ <http://www.infrc.or.jp/reseach/151/> メール kensyu@infrc.or.jp

興味をお持ちの方は圃場や施設の見学も可能、質問も歓迎です。連絡お待ちしております。